



エーエスジェイ 株式会社

国内で水処理機器の販売からメンテナンスなどを行っている。海外においては、インドネシアの全域にヤシ殻炭を使った浄水器の販売を展開。黒にんにくの製造・販売も手掛ける

展開国・地域 2018年 インドネシア

企業情報 所在地: 宮城県仙台市 従業員数: 9名
設立: 2013年6月 URL: <https://asjapan.co.jp>

事業内容 <国内事業> 水処理機器販売・工事、上下水道コンサルタント、黒にんにく販売
<海外事業> 水処理機器販売、黒にんにく製造・販売



- 1 販売のパートナーでもある寄宿学校「ヌルルイマン」のウミ理事長(中央)
- 2 寄宿学校に設置したヤシ殻炭を使ったろ過機
- 3 黒にんにくの加工工場。黒にんにくはインドネシア産の一片種にんにくを原料に製造
- 4 設置を完了した簡易浄水器



水のろ過を通して、現地の寄宿学校に対するCSR(企業の社会的責任)活動

「今後、インドネシアに水の仕事があるのでは?」と知人に誘われ2013年に視察へ行ったことを機に、現地とのつながりが始まりました。ご縁があって、2015年に初めて寄宿学校「ヌルルイマン」にヤシ殻炭の製造窯を設置。そこで製造したヤシ殻炭を使って水のろ過機を設置しました。このころはクラウドファンディングなども使い、CSR活動の意味合いが強いものでした。このろ過機が、現地で無理なく継続使用できるように、まずはヤシ殻炭を作るところからスタート。現在では寄宿学校の生徒・卒業生らが炭焼きを行なっています。ヤシ殻炭は定期的な交換が必要なので、今後、ろ過機が広まれば寄宿学校の収益にもつながっていくと考えています。また、ヌルルイマンでは、理事長から相談を受け、内資企業を設立し黒にんにくの製造・販売を行っています。黒にんにく事業の立ち上げの際にも、ジェトロのハンズオン支援を活用しました。現在、ヌルルイマンとは現地での販売パートナーとして良好な関係を続けています。

専門家が企業と金融機関の橋渡し役になり融資が実現

2016年4月に「新輸出大国コンソーシアム」ハンズオン支援に採択され、専門家から現地の商習慣や規制なども含め指導を受け、ときには現地にも同行してもらい、インドネシアでの展開を進めていきました。また、海外案件というと金融機関からの融資がうけにくく、資金調達にも苦労しましたが、専門家の方に間に入ってもらう、地元金融機関や日本政策金融公庫からの融資にもつながりました。実際に弊社の商売として水処理システムを受注したのはごく最近の2018年12月が初めてで、バンテン州の学校に納品しました。ハンズオン支援の採択から2年以上がかりでしたが、現地からの入金があったときは、本当に嬉しかったです。今後は、中小企業として小回りを生かして、中小規模の浄水需要を取り込んでいく計画です。将来的には、ショッピングモールやマンション、ホテルなどに対して、それぞれの状況に応じた水処理システムを販売していくと考えています。

水環境を向上させ、一人でも多くの子どもの命を救う

初めは事業としてインドネシアへ進出しようとしたのですが、現地の状況を知ってからはお金のことに限らずに二の次に考えるようになりました。水はとても大切です。インドネシアでは雨季に洪水が発生し、洪水の汚水が入ってしまった井戸を掃除もせずに飲み水に使って、子どもたちが病気になるケースも多く発生します。なかには死に至ってしまうことも……。私たちが行くことで一人でも救えるのであれば、それが成功かと思っています。2018年には地震で被災した、ロンボク島にもろ過機を設置してきました。今後も現地の水環境の向上に少しでも貢献していきたいと考えています。海外進出については、言葉の壁や文化の違いもありますので、人が絡めば絡むほど自分の真意が伝わらなくなっていきます。国や人種が違って、事業を進める上で最も大事なものは信頼関係です。現地の方々も弊社が考えると同じように、他国の人を怖がり疑ったりするものです。そこで信頼関係を築き上げ続けることが、海外進出の成功につながると思います。「何かをしてやる」といった上から目線ではなく、お互い信頼関係を持ちながら事業に取り組みたいと考えています。



代表取締役
中川 一 氏

私たちが現地と関わることで、一人でも多くの子どもたちの命を救えれば、海外事業は成功だと思います

専門家からのポイント



輸出成功のポイントとしては、エーエスジェイとしての思いをしっかりと理解し、現地パートナーとの信頼関係の構築に注意を払ったことです。お陰で双方忌憚のない意見交換ができましたし、私からのアドバイスも積極的に取り入れていただけました。コンソーシアムに参加している種々の支援機関の中から、それぞれで適切な機関を選択し、具体的なサポートにつなげることができたことも一因かと思っています。何よりもエーエスジェイと共にこの事業の社会的な有益性を信じ、しっかりと伴走できたことが成功につながったと感じています。